



「訪日外国人旅行者数200万人の受入に向けた中国ブロック連絡会」の 取組状況と今後の進め方について

増加する訪日外国人旅行者を受け入れる体制を迅速に講じるべく、国土交通省中国運輸局、中国地方整備局、大阪航空局や地方自治体、関係事業者等を構成員とした「訪日外国人旅行者数200万人の受入に向けた中国ブロック連絡会」を平成27年3月に設置し、これまで3回の連絡会を開催してきました。

このたび中国ブロック連絡会の取組状況と今後の進め方についてまとめましたのでお知らせします。なお、平成28年についても中国ブロック連絡会を開催し、さらなる課題の解決に取り組むこととしています。

(参考) 中国ブロック連絡会について

主な構成員

中国運輸局、中国地方整備局、大阪航空局、地方自治体（中国5県・政令市）、経済団体、交通事業者、観光関係団体、通信事業者

中国ブロックとしての主な課題と取組状況

- ・通訳ガイドの不足解消
- ・広島港でのC I Q体制の充実
- ・観光バス駐車場スペースの確保
- ・無料公衆無線LANの環境整備
- その他、ムスリム旅行者の受入環境の促進等

※「別紙」参照下さい。

添付資料

- ・「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた中国ブロック連絡会の取組状況」

【問い合わせ先】

中国運輸局観光部観光企画課（落合、坪倉、曾川） Tel:082-228-8701 Fax:082-228-9412
中国地方整備局企画部広域計画課（和田、山本） Tel:082-221-9231 Fax:082-511-6359
中国地方整備局港湾空港部港湾物流企画室（由木、有田） Tel:082-511-3928 Fax:082-511-3910
（中国地方整備局広報担当窓口）

中国地方整備局 広報広聴対策官 平川 雅文 (Tel:082-221-9231 内線 2117)

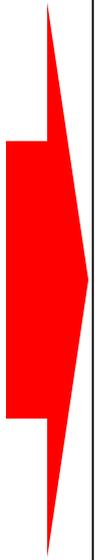
中国地方整備局 企画部 環境調整官 田尾 和也 (Tel:082-221-9231 内線 3114)

【配布先】

広島県政記者クラブ、広島経済記者クラブ、JR記者クラブ、合同庁舎記者クラブ
鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、山口県政記者クラブ
山口県政記者会、山口県政滝町クラブ、中国地方建設記者クラブ

訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた中国ブロック連絡会の取組状況

- 昨年の訪日外国人旅行者数は、過去最高の1973.7万人（対前年比47.1%増）となり、順調に増加。
- 一方、かつてないペースで訪日外国人旅行者数が伸びていく中、訪日外国人2000万人を万全に受け入れる体制を充実させることが必要。



中国運輸局、中国地方整備局、大阪航空局や地方自治体（中国5県・政令市）、関係事業者等を構成員とする「**訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた中国ブロック連絡会**」を設置・開催し、訪日外国人を受け入れる上での**現状と課題をしっかりと把握し、必要な手立てを迅速に講じる。**

訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた中国ブロック連絡会

構成員

中国運輸局、中国地方整備局、大阪航空局、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、岡山市、広島市、中国経済連合会、中国地方商工会議所連合会、交通事業者、観光関係団体、通信事業者

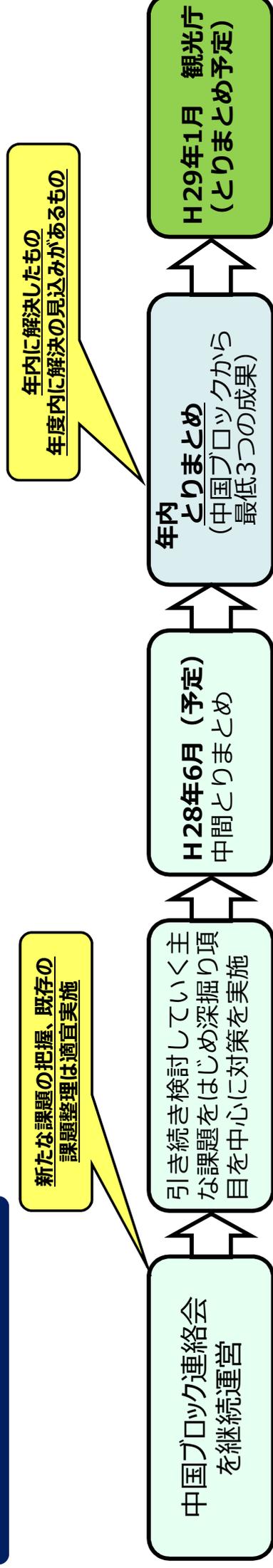
これまでの経緯

平成27年 3月 25日	第1回 中国ブロック連絡会	開催
平成27年 6月 29日	第2回 中国ブロック連絡会	開催（中間とりまとめ）
平成27年12月 15日	第1回 中国ブロック連絡会 合同WG会議	開催
平成27年12月 24日	第3回 中国ブロック連絡会	開催（とりまとめ）

スケジュール



今後のスケジュール



※連絡会やWGの設置・運営（構成員の見直し含む）については中国ブロックにおける実情を勘案し、適切かつ柔軟に行う予定。

中国ブロック連絡会で今後も引き続き検討していく主な課題

課題の主な内容

- ① 通訳ガイドの不足解消
- ② 広島港でのCIQ体制の充実
- ③ 観光バス駐車場スペースの確保
- ④ 無料公衆無線LAN環境の整備
- ⑤ ムスリム旅行者の受入環境の促進

解決の主体

- 鳥取県、島根県、中国運輸局
- 広島県、中国地方整備局、中国運輸局等
- 広島市、中国バス協会、中国運輸局等
- 自治体、中国運輸局等
- 自治体等

※①～④については、「別紙」参照下さい。

■ 通訳ガイドの確保に係る課題と取組の成果

- 大型クルーズ客船の寄港の増加、連続チャーター便の就航等による山陰を訪れる訪日外国人旅行者の増加とともに、FIT化、旅行ニーズの多様化が進む中、山陰両県の通訳案内士が不足していることから、ボランティアガイドや県外の通訳案内士に頼らざるを得ない状況にあり、訪日外国人旅行者の求める詳細な情報を提供するといった対応は十分にできていない状況にある。
- これら通訳案内士をはじめとする通訳ガイドの不足について、鳥取、島根両県が構造改革特区認定を受け、「山陰地域限定特例通訳案内士」を養成し、山陰両県の特徴ある歴史や文化、自然など地域の実情に応じたきめ細やかな案内のできる通訳ガイドの育成を図る。

課題

市町村・地域：鳥取県・島根県
時期：平成27年以前

境港での大型クルーズ客船の寄港の増加、米子鬼太郎空港での連続チャーター便の就航等一方で、通訳案内士が不足しており（平成27年3月31日現在での登録者数：鳥取23人、島根38人）、訪日外国人旅行者の求める通訳ガイドのニーズに十分応えられていない。

取組の成果

構造改革特区法の改正（H27.9.1施行）をうけ、鳥取県・島根県共同で両県全域を区域とした構造改革特区認定申請を平成27年9月16日付けで行い、同年11月27日付けで認定された。

同年12月21日より、養成に向けた研修受講生の募集を開始。今後、クルーズ客船の寄港やチャーター便の就航をはじめ、国際定期航路を活用したツアーに対する通訳ガイド不足を解消し、両県を訪れる外国人旅行者の満足度向上を図る。



大型クルーズ客船寄港時の通訳ガイドの様子

取組方法

解決主体：鳥取県
島根県
中国運輸局

開始時期：平成27年9月



境港大型クルーズ客船寄港時の様子

今後の方針：

平成28年2月より研修を開始し、英語・中国語・韓国語の3言語で鳥取・島根両県それぞれ20人程度を養成し、6月にも実働予定。今後、「通訳案内士制度のあり方に関する検討会」での議論及び「観光立国実現に向けたアクション・プラン2015」を踏まえ、「訪日外国人旅行者200万人の受入に向けた中国ブロック連絡会」の中で更なる改善を図る。

■ 広島港のCIQ体制の充実に係る課題と取組の成果

概要

平成27年8月に大型クルーズ客船（クアンタム・オブ・ザ・シーズ：乗船客約4,900名、乗員約1,600人）が広島港五日市埠頭に初寄港し、今後も多数の乗客・乗員を乗せた大型クルーズ客船を迎える予定である。当該埠頭は、貨物埠頭であることから、大型クルーズ客船の受入れを可能とするため、施設面を含むCIQ体制の整備を行い、入国審査等の迅速化を図る。

課題

市町村・地域： 広島県広島市

時期： 平成27年8月以前

広島港五日市埠頭は、貨物埠頭であることから、通常は船内でのCIQを実施するところであるが、乗客数の多い大型クルーズ客船では、スペースの制約により船内が混雑し、手続きに多大な時間を要するなどの様々な問題が生じる。

したがって、CIQ手続きの迅速化を図るため、施設面を含むCIQ実施体制の整備が喫緊の課題となっている。



広島港五日市埠頭入港の様子
大型クルーズ客船
(クアンタム・オブ・ザ・シーズ)

©篠本秀人

取組の成果

平成27年8月の初寄港時には、臨時的な対応として「広島港客船誘致・おもてなし委員会」が中心となり対応を検討した結果、大型仮設テントの設置およびテント内への仮設ブースの設置（23ブース）により円滑なCIQ手続きを実施し、船社からも高い評価を得ることが出来た。

また、今後の寄港に備えた設備面の改善については、通常は貨物を取扱い、客船寄港時には旅客ターミナルとしてCIQ手続きも可能となる上屋を整備することとし、昨年10月より建設に着工、2月末の完成を予定している。

※最大24ブースまで仮設可能であり、円滑な手続きが可能となる。

仮設テント（外観）



仮設テント（内部）



建設中の上屋イメージ



取組方法

解決主体： 広島県
中国地方整備局
中国運輸局

開始時期： 平成27年10月

今後の方針：

広島港旅客誘致・おもてなし委員会（平成26年4月設置 構成メンバー：広島県 [事務局] ・中国地方整備局 ・中国運輸局等 28団体）で今後もCIQの実施体制等について協議を継続する。

■バス駐車場の確保に係る課題と取組の成果

概要

広島市にある世界遺産の原爆ドームを含む平和記念公園に貸切バスを利用して訪れる観光客が多く、ピーク時には周辺道路にバスを駐車する実態があるが、広島市と中国バス協会のはたらきかけにより、関係機関と調整することにより解消を図る。

課題

市町村・地域：広島県広島市

時期：平成27年現在

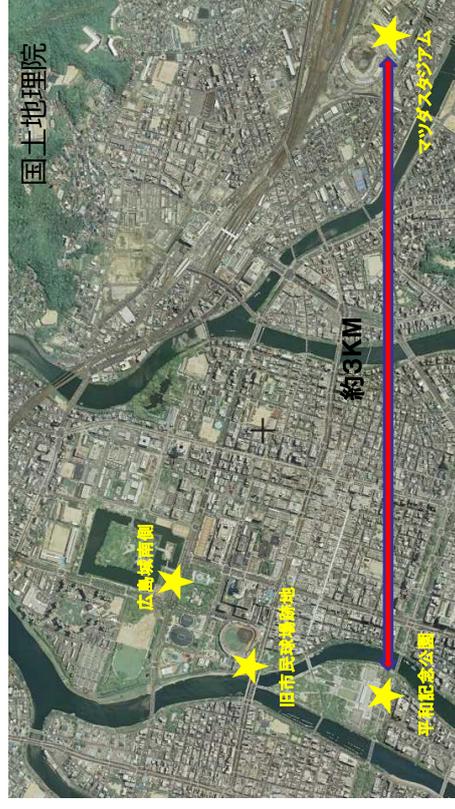
原爆ドームを含む平和記念公園には、貸切バス駐車場（66台駐車可能）があるが、駐車スペースには限界があり、ピーク時においてはバスがオーバーフローしてしまい周辺道路に駐車する状況がある。

貸切バスの駐車場として近隣の中央公園内の広島城南側（60台駐車可能）及びマツダスタジアム付近（80台駐車可能）にも駐車スペースは存在するが、平和記念公園との距離が離れているため、その利用があまり図られていないのが現状である。

取組の成果

平成27年4月以降、観光シーズンには、中央公園内の旧市民球場跡地（20台駐車可能）の暫定使用を可能とした。

なお、平和記念公園・中央公園（広島城南側・旧市民球場跡地）については、広島市緑政課が管理しており、引き続き、同課を含む関係者と調整し、バス事業者に対する周知等も含めて当該課題の解消を図る（マツダスタジアム付近は、広島市観光政策部が管理）。



取組方法

解決主体：広島市
中国バス協会
中国運輸局

調整対象：バス事業者等

開始時期：平成27年4月以降

平和記念公園



写真提供：広島県

今後の方針：

平成28年1月以降、関係者との調整の中で情報共有や対応検討を行う予定。

■無料公衆無線LAN環境整備の課題と取組の成果

概要

官民連携して環境整備に取り組み、無料公衆無線LANのアクセスポイントは増加しているが、アクセス数はそれほど伸びておらず、認知度向上が課題。また、更なる利便性向上に向け、外国人の動線を考慮したWi-Fiの面的拡大や統一したSSID認証方法による連続性確保、災害時の防災情報収集対策としてWi-Fi環境の整備を図る。

課題

市町村・地域：中国地方全域（ほか）

時期：平成27年現在

無料公衆無線LANのアクセスポイントの認知度向上

Wi-Fiの面的拡大や統一したSSID認証方法による連続性確保

一度ログインすればエリアが変わっても自由なく使えるWi-Fi「ワン認証」

取組の成果

- 観光庁では、Japan Free Wi-Fiとして、全国の無料Wi-Fi情報を海外に発信し認知度向上に努めている。
- 中国地方整備局では、管内直轄国道の道の駅において、道の駅の情報発信機能の強化を目的として、道路情報コーナーに「道の駅SPOT (Wi-Fi)」を整備することとしており、今年度内の整備完了を目指す。

- 主なサービス内容
 - ・ 24時間365日無料
 - ・ 利用規約に同意後、メールアドレスを入力で使用可能
 - ※一度認証すれば半年は自動で接続
 - ※災害時はメールアドレス入力なしで接続
 - ・ 接続後、県別のポータルサイトから以下の情報にアクセス
 - 道の駅の情報、道路交通情報、気象・災害情報、観光情報、地域情報等
 - ・ ユーザ登録は、日本語、韓国語、英語、中国語（簡体及び繁体）
- 「道の駅スポット (Wi-Fi)」のイメージ



取組方法

解決主体：観光庁
中国地方整備局

着手時期：平成27年12月
※「道の駅SPOT」



【共通シンボルマーク】

今後の方針：

直轄国道の先行する道の駅について、今年度内の「道の駅SPOT」の整備完了を目指す。